

■ On-Air 3000 ニュース

株式会社南日本放送 様

On-Air 3000



ラジオ・スタジオ4室を On-Air 3000 で更新中



■ MBC B スタジオ

ラジオシステムを全て更新

株式会社南日本放送殿では、2008年度にラジオマスター及び4つのラジオスタジオの設備を更新していきます。20年以上の長い間、ラジオシステムを愛用してきた制作オペレーターさん達にとって、音声卓だけではなく最新の録音・再生機器(IC/MOレコーダーやPC編集など)へのシステムの移行、そしてそれに合わせた制作手法など、一気に制作環境が変わってしまう状況になりました。全ての録音媒体がデジタル化され、6mmテープ中心の制作作業からいかにスムーズ移行できるかが重視されるどころです。そこで音声卓は、制作オペレーターさん達にトレーニングの負担を極力かけないよう「シンプルで使い易いもの」「仕様・用途の異なる4つのスタジオでなるべく共通な使い方ができるもの」「制作者の技量の幅に



対応できるもの」を基準に、On-Air 3000 音声卓を選定いただきました。

C スタジオ

まずは、制作オペレーターさん達に慣れていただくため、小規模のオフライン中心の新Cスタジオの設備を9月に更新しました。新Cスタジオは玄関ロビーに面しており、ラジオスタジオの存在をアピールしたスタジオです。アナウンス・ブースもありますが、副調整室ではワンマンスタイルでの収録もこなせる仕様となりました。狭い副調整室には、今まで機材が堂々と配置されていましたが、レイアウトフリーな On-Air 3000 の長所を最大限に生かし、2人での掛合いも考慮した設計の若干変形した音声卓テーブルを製作、快適な空間を確保しており、雰囲気の良いトークができることと思います。

B スタジオ

続いて、メインの放送スタジオの代用としても使用される新Bスタジオの設備を10月に更新しました(写真は工事完了前のものです)。新Bスタジオは、ホールあり、ブースあり、テレビのコメント録りありと、まさに多目的な使い方をするスタジオです。ホールでの収録はもちろん、更新中の代替運用時には4名程度のワンマンスタイルでの

生放送運用もこなします。また、ディレクター用テーブルにも独立したOn-Air 3000のフェーダーやモニターを配置し、ワンマン用の卓と連携できる仕様となっています。

残り2 スタジオも順次更新予定

今後、11月に緊急ニュース対応のMスタジオ、2月に「展望スタジオ」の愛称でメインの放送スタジオである新Aスタジオと更新作業が続きます。On-Air 3000はオペレーションを簡単にするために様々な設定をすることができます。Cスタジオ納入後に出てきた制作オペレーターさん達の新たな要望にも柔軟に応え、Bスタジオにも反映しています。まったく新しい、しかも快適な作業環境のためのベストなセッティングとシステムの融合を具現化していく予定です。

